

## 研究の効率化ニーズに基づく画期的な商品開発 ファブレス生産と積極的な輸出のビジネスモデル

理化学機器、理化学消耗品および分析機器の企画・設計・製造・販売を実施。先代経営者は半導体装置関係の下請け商社であったが、現経営者によって100%業態転換を実現した。研究の効率化ニーズに基づき、画期的な商品開発を実施、特許は大手企業と共同で取得し、技術的優位性や独占販売権は同社が保有している。また、同社は開発と最終的な組立調整を行い、加工部品製作は連携企業で行うという方式で、国内外の大学や研究機関からの受注を獲得。輸出も20か国と拡大中。

所在地 神奈川県藤沢市本町1-12-19  
電話/FAX 0466-23-8382/0466-23-8270  
URL <https://www.bicr.co.jp/>  
代表者 代表取締役 木下一真

設立 1987年  
資本金 2,000万円  
従業員数 17人



### 世界の研究機関の研究効率化に資する理化学分析装置の開発・輸出

試料前処理時間の短縮化に資する「試料濃縮装置コンビニ・エバポ」を開発。国内のほぼすべての理工系大学と大手企業の研究部門に多数納入されている。海外にも20か国の輸出実績があり輸出はさらに拡大している。この他、樹脂分析装置(米国大手自動車会社や米国政府機関、NASAなどで採用)や香り分析装置(大手食品会社に納品)など研究者のニーズに基づく製品開発を積極的に展開している。研究現場で使用される消耗品も開発し、新生児誕生時に先天性の異常を調べる新生児スクリーニング検査の分野では全世界で採用されている。



試料濃縮装置コンビニ・エバポ

### 特許の独占販売権を保持し、ファブレス生産により連携企業の雇用創出に貢献

研究者のニーズを把握するため、消耗品開発から始め、研究者とのネットワークを拡大した。ニーズを知財面から絞り込み開発に着手。特許については顧客である大手企業との共同出願を行うが、技術的優位性・独占販売権は同社が保持。同社は開発と最終的な組み立て調整を実施し、加工・部品は関東を中心とする数十社の中小企業と連携するファブレス生産である。連携会社とはITインフラを活用し積極的な情報交換を実施している。同社の売上増により連携先企業の売上増や雇用創出に貢献している。



受託分析も実施

### 日本のものづくり力を活かして輸出により外貨を稼ぐ方法で海外展開

①部材の99%は純国産という日本のものづくり力を活かした海外展開 ②コロナウイルス蔓延前まで海外展示会に年2~3回ペースで出展し、海外研究機関へ積極的にPR ③海外販売においては、アメリカ、ノルウェー、ロシア、イギリス、インド、韓国、タイ、中国、台湾、シンガポール、ニュージーランド、イタリアに代理店ネットワークを構築(フィンランド、ポーランド、ハンガリー、オーストラリア等に輸出) 輸出国は20か国以上に拡大 ④インターネットでの販売促進も展開。ウェブマーケティングも強化 ⑤アメリカとフィンランド以外は売掛金の回収は円決済。



納入先(米国パデュー大学)